

<審査講評>

小学校の部

1年生の作品は応募数10点と少ない点数でしたが、どれも1年生らしい素直な気持ちでしっかりと描き込まれていました。その中から上位入賞の作品は、口を大きく開けて真剣な表情で歯磨きをする様子を描くだけでなく、バック(背景)には模様や画面の分割を加えるなどの工夫も見られました。また、クレヨン之力強さが生かされた作品となっていました。

2年生では画材をクレヨンだけで終わらせず、その後から水彩絵の具を加えて制作した作品も増え、成長を感じます。他にも、画面いっぱい口を大きく開けて歯磨きをする絵画作品からコピー(文案)を加えたポスター様式の作品まで、表現の広がりを感じました。歯磨きをする顔の表情が生き生きとしていたことや人物を小さめに描いた作品にはその周りに何かを描くなど、それぞれの個性や工夫が生かされた作品に仕上がっていました。ただ、いくつかの作品にバック(背景)が狭いということからかもしれませんが、着色されていなかったことは気になりました。

3年生ではクレヨンだけの作品よりも、それに水彩絵の具を取り混ぜた作品が増えたことに3年生らしさを感じます。今回は残念ながら、最優秀作品は該当なしとなりましたが、入賞作品には歯を磨く人物の表情や表現に自分らしさを感じられました。画面構成や背景にも目を配るなど、制作する上でもうひと工夫加わると、よりよい作品になっていくと思います。

4年生の作品は小学生の部で最多の応募数ということだけでなく、入賞作品は内容的にもそれぞれが、思いついたアイデアをもとに制作し、個性がよく表れていました。特に見る人を優しく包み込む笑顔の人物や擬人化したユニークな歯を描いた表現は、見ていて楽しい気分にさせてくれました。またポスター様式の作品は、的確な文字配置のなされた画面構成ができていました。

5年生の作品は9点という少ない応募数だけでなく、バック(背景)を塗っていないものや色鉛筆やカラーペンだけで彩色された作品もあり、残念に思いました。そのため、最優秀作品はじめいくつかの賞が、今回は該当なしや減数という結果となってしまいました。しかし、入賞作品のこやかな表情の人物、絵の具のきれいな色使いは、優しい気持ちにさせてくれるようでした。

6年生になると、入賞作品はユニークな発想の表現や丁寧な彩色で仕上げた作品が多く、さすが最上級学年という印象を持ちました。他にも画面全体をはっきりした色使いで着色するなど、アピールするという役割を意識した制作ができていました。その中でも最優秀作品は、濃淡の変化を生かして絵の具本来の美しさを際立たせた秀逸な作品でした。

中学校の部

中学生の部ではどの学年もある程度の応募数があり、内容的にも見る人に歯の健康を維持していくことの大切さを訴えるなど、ポスターとしての目的を意識して制作されていたことはよかったです。

1年生では独自のアイデアをもとに、自分らしく表現した作品が多く見られました。特に、最優秀作品はユニークな視点からとらえた発想力で、見る人を自然と惹きつける魅力を感じます。他の入賞作品ではデザイン的な彩色にこだわらず、絵の具の美しさを生かした水彩画風の彩色で仕上げた作品などもあり、それぞれが自分の思いを素直な気持ちで制作していったのではないかと想像します。上位入賞作品の3点は、コピー(文案)もよく工夫されていました。

2年生の作品の多くが、中学校での美術の授業や美術部で身につけてきたデザインの技術や効果を生かして制作されていました。また、入賞作品のほとんどは、イラストだけでなく文字もおろそかにしない姿勢がうかがえ、きちんとレタリングをして効果的な目立つ配色で着彩されていました。また、上位入賞作品のさわやかな色使いや健康な歯を保つための歯磨きを推奨する姿勢が、押しつけがましさのない自然な感じで、良い印象を与えています。

3年生の上位入賞作品には、これまであまり見られなかった大胆な構図や独創的なアイデアが新鮮な印象を与え、見る人を思わず惹きつけてしまう魅力があります。また、色使いについても互いに引き立たせる色同士をうまく組み合わせることで彩色し、自然と目に留まるようなポスターに仕上がっていました。他の入賞作品では、擬人化された歯の親しみやすい表情と行動で歯磨きの徹底を促す作風に、アイデアの工夫を感じました。

最後になりましたが、このコンクールに際し、コロナ禍での厳しい状況が続いている中で、各校の先生方には大変なご尽力をいただき、心より感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

筑紫野市立二日市中学校
富田 千恵子